

## 第1B分科会

### 「教育課程に関する課題」

指導助言者

森田 佳之

東京都

品川区立小山小学校 校長

鈴木 孝裕

茨城県

県北教育事務所 管理主事

提言者

斉藤 健一

札幌市立資生館小学校

渋谷 恭子

常陸太田市立太田中学校

研究主題

1 校種間連携から考える教育課程～札幌市の特色を生かした校種間連携による教育課程の工夫～

2 学校教育目標の実現を目指すした教育課程の実践を推進する学校運営の在り方～

「鍛え、磨き、育む」資質

能力の育成を通して～

「1」について

① 取組事例

ア 小学校と幼稚園・保育園との連携

・「ゴーゴープロジェクト」

イ 小学校と中学校との連携

・「パートナー校」における

研究活動

ウ 小学校と高等学校との連携

・小・中・高合同ボランティア活動

エ 小学校と特別支援学校との連携

・児童との交流会の復活

② 成果〇と課題●

○ 児童・生徒が互いに思いやり、尊敬し合う良好な関係の構築につながっている。

○ 「学び」や「育ち」を切り口に、地域で目指す子供像の共有が図られている。

○ 「研究の継続性」については、教育課程への位置付けにより持続可能な組

組になっている。

○ 「組織的な研究の協働性」

については、組織的に小中連携ができる取組になっている。

○ 「教頭の関与性」について

では、教頭が窓口になり、校種間連携、地域内連携が図られている。

● 今後さらに、教頭間の連携を密にし、実践交流を深めていく。

● 活動を通して何を学ぶのかをしつかりと吟味し、活動の精選をしていく必要がある。

○ 「習得」と「活用」のバランス

○ 教職員間での協力が強化され、教育活動に基づいた一貫した指導が行われ、授業の質が向上した。

① 取組事例

ア 研究主題に迫るための方向性の共有化を推進するための役割

・視点の共通化

・特に高めた力を明確化

・「夢カード」

・求める研修

イ 授業改善を通じた資質能力を高めるための学校運営の充実における役割

・「習得」と「活用」のバラ

成果を周知し、共同実践すること、さらに推進する。

ンス

・学校全体で一貫した指導

・自分の未来をイメージ

・定期的な助言

ウ 生徒の資質能力を高めるための役割

・自己評価

・ICTの活用による成長の可視化

② 成果〇と課題●

○ 「鍛え・磨き・育む力」を意識的に関連付け、意欲的な取組につながった。

○ 「習得」と「活用」のバランスを取ることで実社会での活用を考える機会が増えた。

○ 校種間交流の連携が継続すること、親しみやすくなり、あこがれとなる。

・どの学校もミドルリーダーが不足している。今後は人材育成の取組を充実させていかなければならない。

・どの連携にしても、お互いに得るものがあるようにしていかなければならない。

・小学校であれば、中学校を見据えた教育など、どの段階でも次のステージを意識しておかなければならない。

・小・中のパートナー校が、校種を超えて真剣に学び合うことで指導力向上につながっている。

・校種間交流の連携が継続すること、親しみやすくなり、あこがれとなる。

・どの学校もミドルリーダーが不足している。今後は人材育成の取組を充実させていかなければならない。

・どの連携にしても、お互いに得るものがあるようにしていかなければならない。

・小学校であれば、中学校を見据えた教育など、どの段階でも次のステージを意識しておかなければならない。

・小・中のパートナー校が、校種を超えて真剣に学び合うことで指導力向上につながっている。

・校種間交流の連携が継続すること、親しみやすくなり、あこがれとなる。

・どの学校もミドルリーダーが不足している。今後は人材育成の取組を充実させていかなければならない。



## 第2分科会

### 子供の発達に関する課題

#### 指導助言者

佐々木 香織

牛久市立神谷小学校校長

錦織 一宏

鹿行教育事務所管理主事

#### 提言者

半藤 博士

上山市立南中学校

佐藤 則和

玉村町立中央小学校

#### 研究主題

1 児童生徒の豊かな人間性を養うために―「感動する心、思いやりの心、自他を尊重する心」の育成を目指した地域学校協働活動を通して―

2 子供まんなか、一人一人が笑顔になるための支援の在り方―チームとして子供を支援するための教頭のマネジメントについて―

#### 「1」について

① 育成を目指す児童生徒の資質・能力の設定

② 上山市の特徴を生かした地域学校協働活動を展開するための教頭としての役割

・ 推進員の業務の明確化と連絡調整

・ 教員と支援員がスムーズに連携する仕組みづくり

・ 地域の方の想いを活かした活動づくり

・ 地域の声を活かした学校運営計画づくり

③ 成果と課題

○ 推進員による講師等との連絡調整により、活動に適した人材が関わることで、児童生徒のより良い学びにつながった。

○ 教頭が学校の方針との適合性を図る中で、ねらいと活動の根幹についてお互いに共通理解をすることができた。

○ 講師である大人が楽し

みながら活動している姿が見られ、学校を核とした地域づくりに向かっていく。

○ 学校と地域両方の想いを十分理解している推進員からの情報も得ることで、学校・地域の想いを踏まえた学校のグランドデザインを適宜修正し、学校運営協議会等における熟議に生かしている。

● 学校評価アンケートなどの状況を分析すると、児童生徒を十分に耕し切れていない状況となっている。

○ 指導助言

・ 職員に地域づくりの視点を持たせることが重要。

・ 地域の大人を活用するために、地域の声をグランドデザインに反映することが重要である。

・ 学校と地域の意識がずれないように市のビジョンを基に話をすることが大切である。

#### 「2」について

① 推進にあたっての実践事例紹介

・ 3年生以上の教科担任の推進と1・2年生の担任外のサポート

・ 別室登校児童、外国籍児童、特別支援学級在籍児童への支援体制

・ 外部人材の活用  
・ ブロックチーム担任制の導入

・ YUMELームの設置  
・ 教科担任制の導入

② 成果と課題

○ 様々な立場の人間が対応することで、子供を中心とした支援が可能になっている。

○ 職員が一人で抱え込まずに子供への支援や保護者対応が可能になった。

● 外部と連絡調整を行った後の全職員での共有の際に、漏れがないようにするためのシステムの構築。

③ 指導助言

・ 教科担任制等の導入に向けて、教頭のマネジメントはとても重要である。前向きに話し合いを進めることが大切である。



## 第5 A分科会

教職員の専門性に関する課題

### ○指導助言者

・服部 倫子  
大阪府

堺市立深井小学校 校長  
・稲葉 恭子  
茨城県

県南教育事務所 管理主事

### ○提言者

島根県  
・中村 浩志  
益田市立真砂小学校

・田原 俊輔  
益田市立豊川小学校

新潟県  
・五十嵐 啓滋  
南魚沼市立おおまき小学校

### ○研究主題

1 楽しみながら学び続ける  
教職員集団の人材育成に向

けた教頭の関わりく教職員  
のウェルビーイングの実現  
に向けてく

2 若手教職員の授業力と生

徒指導力を高める研修と組  
織体制く新潟県の教員等育  
成指標をもとにした若手教  
員の育成く

「1」について

① 教職員のウェルビーイン

グの実現

教職員不足、早期離職、教  
育課題の多様化・複雑化が進  
行している。これらの課題を  
解決するためには、学校現場  
で働く教職員のウェルビーイ

ングの実現が不可欠である。

② 研究の視点

ア 校長会との連携

校長会が実施する「人材育  
成プロジェクト」の一環とし  
て、教頭を対象とした研修会  
を開催した。講師は校長会か  
ら派遣された。

深い造詣と確かな知見を持  
つ講師の助言により、自校の  
教職員への働きかけを教頭自  
身がアップデートできた。

イ 教頭対象意識調査の実施  
教頭としての悩みやジレン  
マを明らかにし、課題解決に  
向けた取組について共通理解  
を図った。

日々の職員室経営や人材育  
成においては、教頭が常に人  
材育成の視点を持って打開策  
を模索することの重要性が確  
認された。

③ 成果と課題

○教頭としての悩みの共有

○校長会との連携

●校種を超えた交流と継続的  
な研修の実施

④ 指導・助言

・若手教職員の人材育成は、  
全国的に喫緊の課題である。  
どの学校でも重要な教育課  
題である。

・人材育成のポイントは、対  
象教職員の自己有用感の向  
上を目指すこと。

・教職員の研修ニーズを的確  
に把握し、それに応じた研  
修体制の確立が求められる。

・人材育成は学校全体で取り  
組む必要があり、特に校長  
と教頭の連携が鍵となる。

・教頭が中心となり、校内の  
組織体制を整備し、研修体  
制の構築を図ることが望ま  
れる。

「2」について

① 若手教員の成長促進

新潟県の教員育成指標に基  
づく授業力向上研修  
生徒指導におけるOJT研  
修の実施

中堅・ベテラン教員を含め

た学校全体での力量形成

② 研究の視点

ア 教員育成指標に基づく授  
業力向上に向けた研修体制  
の確立

若手教員の授業参観後に、  
育成指標に基づいたフィード  
バックを実施した。

中堅・ベテラン教員には、  
若手教員のロールモデルとな  
るような取組を促し、学校全  
体の教員の力量形成を図った。

イ 生徒指導体制の構築

若手教員と中堅・ベテラン  
教員がチームを組み、組織的  
な対応を実施した。

若手教員はOJTを通じて、  
生徒指導の実践的な学びを得  
ることができた。

年間を通じて密な情報交換  
や児童の見取りを行い、予防  
的な生徒指導の取組が可能と  
なった。

③ 成果と課題

○若手教員が自身の成長を実  
感することができた。

○児童評価による授業力・生  
徒指導力の向上

●地域全体での課題の共有と  
若手教員育成に向けた継続

的な実践

④ 指導・助言

・教員育成指標を活用した若  
手教員育成の好事例である。  
若手教員育成には、システ  
ム構築が重要となる。そし  
て、教頭がその設計者とな  
ることが望ましい。

・成長を実感するためには、  
達成度の可視化が必要とな  
ってくる。自己の成長を実  
感すること、さらなる成長  
が促される。

・若手教員育成は、学校全体  
で取り組む文化として定着  
させることが求められる。



全国大会速報

(1) 分科会名

第5B分科会

(2) 指導助言者

矢ヶ部 哲也氏

山口県下関市立

豊東小学校 校長

小菅 裕子氏

茨城県県西教育事務所

管理主事

(3) 提言者

高橋 由希子氏

高知県南国市立

香南中学校 教頭

田崎 浩美氏

茨城県八千代町立

中結城小学校 教頭

(4) 研修主題

教職員の専門性に関する課題

(5) 分科会の内容

香南中学校高橋教頭先生は、  
「教職員の同僚性・協働性の  
向上と学校運営参画に向けた  
教頭としての役割」という主  
題で発表された。研究として  
若年教員（1～5年次）とベ  
テラン教員（6年次以上）に  
対しアンケートを年2回実施  
している。考察では、若年教  
員は、年度当初職務に対し充  
実感を得られていたが、年度  
途中ではベテラン教員間の  
有意差がなくなっていること  
など興味深い考察をされてい  
た。まとめとして、職場のウ

エルビーイングを高めるためには、管理職や同僚からのサポートが必要であるということであった。

中結城小学校田崎教頭先生は、「指導教諭を核とした、町全体の指導力向上を目指して」という主題で発表された。研究として教頭が自校の教員の資質向上及び教育活動にどのように関わっていくことができるかを検証していた。特に指導教員との協働に焦点を当てた取組となっていた。各自治体で差があるが、指導力のある教員や有能な人材の効果的なマネジメントに重点を置くことが必要であるとまとめている。

(6) 指導助言

高橋教頭先生の提案に対し、組織の力に対応する環境づくりが必要であり、キャリアに応じた働きかけが大事である。また、自らがキャリアに対し具体的なイメージを持つことが求められるという助言をいただいた。

田崎教頭先生の提案に対しては、指導教諭の専門性を最大限発揮できる体制・研修体制作りが望まれること、教頭としての様々な仕掛けが必要であるとの助言をいただいた。